指導と評価の一体化のための

指導案作成上の留意点

第 ○ 学 年　○ ○ 科 学 習 指 導 案

○年○組　指導者　○ ○　○ ○

単元（名）

●学習のまとまりに付けた名前

題材：図工、家庭、学級活動　　主題：道徳

1　単元設定について

○本学級の児童は・・・（主語を「子ども」として書く。）

児童生徒観

●単元の目標と内容からみた子どものレディネスと育みたい子どもの姿

①今までに、本単元に関係するどのような学習（内容・方法）をしてきたか？

②その学習内容のうち、どんな観点をどの程度獲得しているか？

③本単元に顕著に見られる学習方法をどの程度獲得しているか？

④本単元の学習内容と方法を獲得することで、子どもたちがどのようになると考えているのか？また、それはなぜか？（研修テーマ、目指す学校の子供像等との関連）　など

○本単元は・・・（主語を「本単元は」や「この学習材は」として書く。）

教材観

●単元や学習材の概略と、目標や内容からみたこの学習材の価値

①単元の概略（ねらい・特徴）を端的にまとめると何か？

②単元や学習材が上記児童生徒観にふさわしいと考えるのはなぜか？

③単元の学習内容を獲得させるのにこの学習材がふさわしいのはなぜか？

④この教材は、どんな学習方法を行うのにふさわしいか？そして、それはなぜか？　など

○そこで、指導に当たっては、・・・・（主語は、書かないが「私」）

指導観

●「児童生徒観」と「教材観」を受けて工夫する指導のポイント

①「何のために」「何をどのようにするのか」という指導の具体、工夫は何か？（すなわち、この指導案の主張点は何か？）箇条書きもわかりよい。

②たとえば、課題設定や解決の仕方（学習方法）の工夫は何か？

③たとえば、評価の仕方と指導への生かし方の具体は何か？

④ここの記述は、（全てではないが）本時案の支援と対応する。

2　目標　　（通常、文末は「・・・できるようにする。」　　1の答えとして捉える）

○

○

●1で述べたこと（「こんな子ども」に「このような学習材」で「このように指導する」）を実践することによって育つ子どもの具体的な姿

①達成目標と成長目標　②知識・理解、技能目標と情意目標　③通常の達成目標と研究の重点としている目標　などの二つに分けて書くこともある。